

朝六小だより

朝霞市立朝霞第六小学校

児童数 1094名

令和7年8月29日号



今学期も皆様と手を取りあって子供たちのために

校長 こじま たかし 小島 孝之

まだまだ暑さが続いています。本日から2学期が始まりました。大きなけがや事故がなく本日を迎えることができ、大変うれしく思っております。

話は夏休みのこととなりますが、8月2日の彩夏祭において、本校の子供たちが鳴子踊りの演舞を行いました。私も沿道から応援をさせていただきましたが、猛暑日の中、一人ひとりの表情が生き生きと、楽しそうに踊っている姿を見て、感動するとともにたくさんのパワーをもらいました。

代表者の渡邊 直仁 様を中心に練習を重ね、当日は沿道につめかけた多くの観客の前で、見事に力を発揮した子供たちに大きな拍手を送りたいと思います。そして、ご指導をいただいた方々や保護者の皆様にも感謝申し上げます。

当初、定員70名で募集をしたところ、140名の応募があり、運営の都合上、抽選を行わざるを得なく100名にさせていただきましたと聞きました。残念ながら希望に漏れてしまった子供たちも多く、次年度は全員が参加できるように指導者の手配、練習を2回に分けるなど様々な工夫をしながら検討を進める予定とのことです。そのためにも今まで以上に学校も後押しをしてまいります。

もう一つ、先月の7月29日に、「六小のまわりのむかしをさぐろう!」と題して、夏休み子供教室を開きました。講師は本校の保護者であり、令和3年度朝霞市博物館歴史講座の講師を務めていた飯倉 康祐 様です。図書室で行う予定でしたが、あっという間に参加人数が40名を超え、手狭になったため多目的室で開催しました。いざ始めると、話を聞くだけではなく、現在の朝霞市の地図と、明治時代の地図を見比べて、まだ残っている地名を発見したり、その理由を考えたりと、ワーク作業を行いながら楽しく学ぶことができました。子供たちは朝霞市の魅力をさらに知るきっかけになったと思います。今回限りではなく、ぜひ次もお願いをする予定です。



本校は2学期より正式に「SSR」を開室します

SSRって何?と思う方が多いと思います。これはスペシャルサポートルームの略で、自分の教室に入りづらい子供たちが、学校内の別な場所で学習・生活できるための教室を指します。国が、不登校により、学びにアクセスできない子供たちをゼロにするという方向性を示し、多様な学びの場を確保するように条件を整えることを打ち出しました。

教室に入れずに家庭にこもってしまい、人と人をつなぐ大切なコミュニケーションの時間が不足し、学びの確保もできない状況は、予測困難で不透明な世の中を生き抜くうえで、子供たちの大きな障壁となってしまいます。本校でも登校不安などが理由で教室に入りづらい子供たちがおります。昨年度と比べると少なく、改善している状況が見られますが、それぞれの欠席状況に応じ、担任、学年、養護、教育相談主任、管理職、スクールカウンセラー、朝霞市子ども相談室、市教委などと連携しながら寄り添った声かけや支援をしています。

今回開設するSSR(校内教育支援センターとも言われています)は、教室に入りづらい子供たちが、別の空間で学習・生活する環境を整えています。SSRで学習することはもちろん、教室とつないでオンライン指導やテストを受け、その結果を成績に反映することもできます。悩み事をじっくり相談することもできます。1学期に教室は設置したのですが、今学期より2名の教員免許を持った支援員が配置されたため、正式に保護者の皆様にお知らせをいたします。

どの子も学校に登校できて、社会的な自立に向けて様々な学びを継続できるよう、これからも本校は子供たちを支援してまいります。

なお、後日、ご案内のリーフレットを配信させていただきます。



【1学期、仮開設したSSRです】